

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



8月8日、淀川鵜殿でツバメのねぐら入り観察会をおこなった。ツバメやそれを狙うハヤブサなども観察。

Contents

- 夏季寄付のお礼とご報告 P 2
- GEN 自然と親しむ会参加者募集 P 3
- ツバメのねぐら入り観察会報告／あの人この人 ... P 4
- 大同緑化協力 25 年の軌跡 P 6

2020.9
195

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク

夏季寄付のお礼とご報告

61 件、817,716 円の寄付があつまりました。
みなさまのご協力ありがとうございます。

いつも GEN を応援していただき、ありがとうございます。7 月の会報で夏季



寄付を呼びかけたところ、たくさんのご協力をいただきました。ご協力いただいたみなさま、どうもありがとうございました。寄せられたご寄付のお礼とご報告です。

7 月 17 日から 8 月 31 日までにお寄せいただいた寄付は 817,716 円、61 件でした。

昨年（2019 年）同期間の寄付が 1,447,692 円、49 件でしたので、昨年よりも金額は減少しましたが、昨年度よりも寄付件数は増加しました。GEN を応援してくださる人数が増加しているのは大変ありがたいことであり、活動



の励みになります。

なかには新型コロナウイルス感染拡大をうけての 10 万円の給付金を寄付してくださったかたもいらっしゃいました。

4 月からの累計の寄付額は 1,460,757 円、94 件となり、今年度寄付予算 800 万円の 18.3% に達しました。

GEN は今年度新型コロナウイルス感染拡大の影響でなかなか従来どおりの活動がおこなえませんが、そんななか支えてくださっているみなさまのご協力に大変感謝いたします。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

GEN 事務局よりお知らせ

新型コロナ禍で今年度予定していたさまざまな行事が中止されています。

新型コロナウイルス感染拡大が収まらないなか、豪雨や台風などの影響で不便な生活を強いられている方もいらっしゃると思います。被害にあわれた方がたに心よりお見舞い申し上げます。

新型コロナウイルスの感染拡大は GEN の活動にも大きな影響を及ぼしています。顔の見える協力を目指して派遣している黄土地高原スタディツアーは今年度派遣を見合わせました。本来であれば今号で 8 月のスタディツアーのようすをみなさまにご報告するはずでしたがそれがかなわず残念です。

また、春と秋に派遣を予定していた中国での野鳥調査も今年は派遣を見合わせています。

国内では、2015 年より続けている東北海岸林再生活動は、10 月にツアーを

派遣し、ゆりりん愛護会の植樹祭に参加する予定でしたが、今回は派遣を見送ることにしました。

イベント出展については、昨年に参加した大阪自然史フェスティバルに今年も出展する予定でしたが、開催が中止になりました。また、12 月のワンワールドフェスティバル for Youth も従来のような会場に集まって出展するかたちではなく、オンラインでの開催となるそうです。

毎年東京と大阪でおこなっている GEN の運営懇談会ですが、今年は会場での開催ではなく、オンラインでの開催を予定しています。詳細は次号でご案内します。

国内で年に 4～5 回おこなっている自然と親しむ会は、野外での活動で 3 密を回避できることから、状況を見な

がら参加人数を減らして秋以降も開催する予定です。興味のある方はぜひご参加ください。

今年度は予定していたイベントがほとんど実施できず残念ではありますが、困難な状況が続くなかでもできることをおこなっていきます。

関東ランチでの自然観察会は現在はおこなえませんが、7 月からオンラインでの月例会を開催しています。よい機会ですので関東以外のかたもぜひご参加ください（オンライン月例会の案内は 6 ページに掲載）。

GEN 関東ランチ 秋の宇久須合宿

GEN 関東ランチ秋の宇久須合宿について、10 月下旬に開催できるか、現在検討中です。参加を希望されているかたは、9 月 20 日以降、関東ランチ上田信さんまでメールでお問い合わせください。

○上田信さんメールアドレス：ueda@rikkyo.ac.jp

参加者
募集

GEN 自然と親しむ会 前中代表と歩く「野の道」シリーズ⑬ 花の文化園で植物観察

毎回好評の前中代表と歩く「野の道」シリーズ、第 13 回目は大阪府立花の文化園を訪れます。河内長野市にある花の文化園は、1990 年に鶴見緑地で開催された「国際花と緑の博覧会」の理念である「花と人の関わり合いを理解する場所」として開園しました。甲子園の 3 倍の敷地に四季折々の花が咲き競う植物園で、秋の植物観察を楽しみましょう。

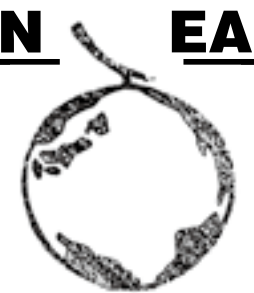
- 日時：9 月 27 日（日）9 時 50 分～15 時ごろ※前号では開催日時を 9 月 26 日と記載していましたが、27 日に変更しました。
- 場所：大阪府立花の文化園（大阪府河内長野市高向 2292-1）
- 集合：9 時 50 分に南海電鉄／近鉄「河内長野」駅。駅から南海バス（406 系統高向行き）で上高向バス停へ移動します。
- 案内：前中久行さん（GEN 代表）
- 参加費：500 円（保険料を含む。別途、バス代片道 220 円、入園料大人 550 円がかかります）
- 定員：15 名
- 持ち物：歩きやすい服装・靴、弁当、飲み物、敷物、雨具、あれば植物図鑑
- 申込み：9 月 23 日（水）までにお名前、生年月日、連絡先を GEN までお知らせください。
- ※小雨決行
- ※状況により変更・中止の可能性があります。

参加者
募集

GEN 自然と親しむ会 秋のキノコ観察会

秋はキノコの季節、万博記念公園にいるさまざまなキノコを観察しませんか。キノコは個人では判断が難しいですが、講師で樹木医の栗栖さんに教えていただきながら観察を楽しめます。

- 日時：10 月 10 日（土）10 時～15 時ごろ
- 場所：万博記念公園（吹田市千里万博公園 1）
- 案内：栗栖敏浩さん（樹木医 松本微生物研究所）
- 集合：10 時に万博記念公園中央口（大阪モノレール「万博記念公園前」駅より徒歩 10 分）
- 参加費：700 円（保険料を含む。別途、入園料大人 260 円がかかります）
- 定員：15 名
- 持ち物：歩きやすい服装・靴、弁当、飲み物、敷物、雨具、あればキノコ図鑑
- 申込み：10 月 7 日（水）までにお名前、生年月日、連絡先を GEN までお知らせください。
- ※小雨決行
- ※状況により変更・中止の可能性があります。



参加者
募集

GEN 自然と親しむ会 無煙炭化器を使った 炭焼き

無煙炭化器を使った炭焼きを開催します。無煙炭化器はシンプルな作りですが 1～2 時間で木材を炭にできる便利な道具です。この無煙炭化器を使って炭づくりをしながら、ついでに焼き芋を楽しみましょう。出来上がった炭が欲しい方はお持ち帰りください。

毎回、炭焼きのついでにバーベキューをおこなっていましたが、今年はバーベキューはおこなわず、焼き芋のみにします。

○日時：11 月 8 日（日）10 時～15 時ごろ

○場所：西宮市武庫川河原（JR 福知山線「武田尾」駅付近）

○集合：10 時に JR 福知山線「武田尾」駅

○参加費：500 円（保険料を含む）

○定員：15 名

○持ち物：弁当、飲み物、敷物、焼き芋用のイモ、作業のできる服装と靴、軍手

○申込み：11 月 4 日（水）までにお名前、生年月日、連絡先を GEN までお知らせください。

※雨天中止

※状況により変更・中止の可能性があります。



前回（2017 年）の炭焼きの様子



ツバメねぐら入り観察会

高田 望 (GEN 世話人)

8月8日(土)、GEN 自然と親しむ会ツバメねぐら入り観察会を高槻市の淀川鵜殿でおこないました。8名が参加しました。



長く続いた梅雨も7月末にようやく明けて、立秋の翌日8月8日(土)にツバメのねぐら入り観察会が行われました。新型コロナを懸念した方々が多かったためか、参加者は全部で8人、こじんまりした催しでした。私自身も電車利用を避けてバイクで移動しました。

観察場所は高槻市道鵜町の淀川右岸河川敷、“鵜殿のヨシ原”と呼ばれているところです。案内役の高田直俊先生からツバメや当地の生態系のレジュメを拝領、さらに説明をいただきつつ、堤防上の歩行者道路からの観察でした。

他にも観察の団体が二組ほど居て、その片方は河川敷の管理用道路に下りていました。そのグループはすぐご近所の皆さんであると、後刻帰宅の際に

分かりました。

ツバメは民家軒下の巣で繁殖し巣立ちの後、ヘビやイタチなどの外敵から身を守るため、大規模な集団を作って背の高いヨシをねぐらにしばらく過ごし、やがて台湾や東南アジアの越冬地へ渡っていくとのことです。計数が大の苦手の私はハナから数えるのを諦めてただ上空をボーッと眺めていましたが、それでも少なくとも千羽や二千羽は居た感じです。彼らはねぐら入りの前に夕食や編隊飛行を楽しんでいる雰囲気、一方近くの鉄塔にはこれらのツバメを“夜食に”と狙うハヤブサが居て、虎視眈々と狙いを定めていました。また「ちょっと不細工な飛び方やな」と感じるコウモリの一群も出没。蚊やアブの対策が必要かと思っていたのが、羽虫は皆喰われてしまっていて、心配無用でした。

さてこの鵜殿のヨシは、雅楽に用いる筆簾(ひちりき)のリードとして最良だそうで「ここでしか採れない」と書かれたサイトもあります。ところが、端から見ると安定相のように感じられるヨシ原も実は近年衰退が進んでいて、

ブランドヨシの維持を重要課題と認識した当局が水路を拵えたり地盤自体を切り下げる工事を行ったりして、適度な生育環境を保全しようとしているとのことです。ただし、オギなどとの場所の取り合い、ツル植物との日照の奪い合いで耐えず変動しているようです(この辺はほぼ直俊先生レジュメのコピペ)。植物にとっては、水が無い黄土高原も大変、水に恵まれていても生存競争が大変だと【実にシロウトっぽい】感想を持ちました。

最後に余談。淀川はその名の通り、日本の河川では珍しく流れの勾配が緩く「河口から31.6km」の表示がある観察地付近でも大阪湾標準潮位+4.5~5mしかありません。日本三大急流の一つで7月に凄まじい豪雨災害を受けた球磨川は、河口から62kmの人吉市付近で標準潮位+102mぐらいですから、淀川のユルさが分かります。



鉄塔の上でツバメを狙うハヤブサ

・簡単に自己紹介をお願いします。

高等専門学校を卒業後、中堅医薬品メーカーへ就職し現在に至るという、GENへの活動協力に関係のありそうな肩書やスキルを全く持たない普通のサラリーマンです。

ちなみに若手として選定されたようですが、世間では1981年生まれで38歳の立派なおじさんです。

・いつからGENに参加しましたか？

GENに参加したきっかけは、高専時代にボランティアサークルで世話人を務めていたのですが、そのサークルの顧問を務めておられた岡先生(元 GEN

川崎 正人さん(大阪府)



あの人 この人

192号から数年ぶりに「あの人この人」のコーナーを再開しました。個性豊かな GEN 会員のあれこれを掲載していきます。

このコーナーでご自身を紹介してください。GEN 会員を募集しています。ご自身が続けている活動のアピールなどでも結構です。「我こそは」というかたは GEN までご連絡ください。



会員)に紹介され、2002年の総会に参加しました。

・GENに入ったきっかけは？

サークルでも植樹間伐等の活動をしていたのですが、スケールの大きさ、植樹知識のレベルの高さに感動したこと、また初めて出会ったのに気さくに声をかけて食事に誘ってくださる会員の方がおられ、すごくアットホームな会であると感じたため。

何より社会人になってからも少しでもボランティア活動に携わりたいと考えていたためです。

・印象にのこっている GEN の活動は何か？

ほぼほぼ総会にしか参加していないのですが……。

自然と親しむ会の泉佐野丘陵緑地での株分けに家族で参加しました。その時に子どもがとても楽しそうでとても良かったと思いました。

・GENの良いところは？

いろいろな高度な知識を持っている方々に最新の環境問題に関する話や技

術が聞け、とても勉強になること、また、そのような知識人と気軽に話ができて繋がりが持てるところ。

もちろん何より大同で大きな成果を出しているところ です。

・逆に悪いところは？

時には逆らえないですが、「高齢化」ですね。一念発起して活動に人生を捧げることができる若者を発掘することが課題ですね。

・GENに期待すること

すでに大きな成果を出していると思うのですが、より広大な範囲での緑化のきっかけとなり、黄砂の季節がなくなればいいと思います(笑)。

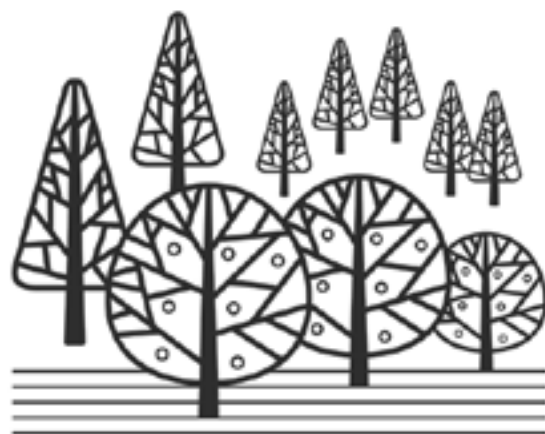
・会員のみなさんへひとこと

本当にただ会員というだけで、現地にも行っておらず総会の賑やかし以外何も貢献できていなく申し訳ないのですが、会が続く限り会員であり続けたいと思います。

また、子どもが大きくなっ

たら何とかがんばって一緒に現地へ行き、子どもにも少しでも自然の大切さ、自然を守る大変さを教えてあげたいと考えています。

そのためにも会が末永く存続し続けることを強く願っています。



いますぐできる GEN への協力

■会員の輪をひろげよう！

緑の地球ネットワーク会費(年額)

一般会費 12,000 円

家族会費(同居の家族2人目から)

6,000 円

学生会員 3,000 円

ジュニア会員(中学生以下) 1,000 円

団体会員 12,000 円

賛助会員 100,000 円

※会費は会報購読料を含んでいます。

■会報を購読してください！

GENの活動に関心はあるけれど会員になるのはちょっと、という方は、会報『緑の地球』を購読していただませんか。年間購読料2,000円。

■緑化資金、運営寄付もとむ

金額は自由です。また、緑化資金、運営寄付の別を問わない使途自由のご寄付も受け付けます。その場合、必要に応じて使わせていただきます。

＊緑化資金の20%は事務管理費になり

ます。

■絵はがき『黄土高原の花』

8枚組・300円(送料別途。5セット以上送料無料)

■書き損じはがきを集めています

書き損じはがき、古い未使用のはがきを集めています。通信費にあてます。

■未使用切手・古切手を集めています

普通切手、記念切手、外国切手なんでもOK。古切手は周囲を1cmほど残して切り取ってお送りください。

■ボランティア募集

会報発送や事務所の手伝いなどのボランティアを随時募集しています。参加可能な曜日、時間帯をご連絡ください。来ていただきたいときに GEN から連絡します。

＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊

【GENへの寄付は税制上の

優遇措置を受けられます】

緑の地球ネットワークは大阪市に認

定された認定NPO法人です(期限は2024年4月8日まで)。

個人による GEN への寄付は、税額控除あるいは所得控除を受けられます。対象となるのは2,000円を超える寄付金で、確定申告が必要です。

企業からの寄付金は一般寄付金の損金算入限度額とは別枠の損金算入限度額が認められています。

また、個人が相続または遺贈により取得した財産を、相続税の申告期限以前に認定NPOに寄附すると、相続税の課税対象から除外されます。

GENの場合、寄付金となるのは緑化基金、運営カンパ、おまかせカンパと会費のうち1口を超える部分、賛助会費から12,000円を引いた金額です。

また、大阪府民、大阪市民のかたには個人住民税の控除もあります。くわしくは GEN までご連絡ください。

大同緑化協力 25 年の軌跡

人の心に木を植える

GENの山西省大同市での25年の緑化協力を振り返り、当時の写真も交えてシリーズでご紹介します。今回で21回目です。（高見邦雄）

中国のメディアの報道やウェブサイト、大同での私たちの協力事業をさして「人の心に木を植える」という表現があり、なかには高見の言葉だと書いているものもあります。たしかに私の本（中国語訳本にも）にそう書いていますけど、私の言葉ではありません。相馬昭男さんが大同にはじめてきたのは2000年3月です。定年退職後に中国語の勉強と称して北京の大学に留学し、中国の全土を遊学中でした。友人の藤沢春海さんといっしょでしたが、大同は北京と同緯度ですぐ近くですから、油断したのでしょうか、二人とも薄着できて寒さに震えていましたよ。緯度は同じでも、標高はほぼ1000m高いですからね。

相馬さんは林野庁のOBで、最後は青森営林局の局長だったそうです。協力拠点の環境林センター（南郊区平旺郷）などをみて、「民間団体の緑化協力なんてママゴトだろうと思っていたけど、こんなことまでやっているんですね。認識を改めました」といっておられました。それが縁で、晩年の何年間か、大同の私たちのプロジェクトに入り浸っておられたのです。活動のすべてをみてもらいましたし、カウンターパートとの話し合いにも参加してもらいました。大同のスタッフたちも「シャンマー（相馬）」「ソオマサン」と呼んで、親しんでいました。

私は「バカ専門」で、植物の門外漢ですし、国際協力について勉強したこともありません。ほかの協力事業を見学したこともなかったのです。ですので、自分たちの協力事業がどの程度のものか、自分でもよくわかりません。

北京からやってくる中国の幹部たちが「国際協力の貴重な成功例だ」と評価してくれるんですけど、中国の人たちが面とむかって悪くいうはずはあり

ませんので、それもあてになりません。あるとき、資金助成を受けている東京の団体を訪ねたら、「あなたたちはこんなことまでやっているんだってね。相馬さんがやってきて話してくれましたよ」と言われました。その人も林野庁のOBで、相馬さんの後輩にあたるそう。「いつも報告書に書いてますでしょ。信じてなかったんですか」なんて悪態をついたんですけど、内心ではうれしかったんです。ああ、それなりの方ができているんだな、と思えて。それからは、日本のODA関係者などの視察のときは、相馬さんを押し出すことにしました。私は専門色を期待し



右側が相馬さん

たんですけど、彼は「この事業のすごいところは、大地に木を植えるだけでなく、人の心にも木を植えていることです」などと紹介しました。私が口にしたら噴飯ものでしょうけど、相馬さんの口からでるとごく自然なのです。

いちばん影響されたのが大同事務所メンバーでしょう。人さまに高く評価されたとなると、ムリをしてでも、それに応えないといけないと思うものです。私もそれに引きずられることがなかったとは言えません。

参加者募集

GEN 関東フランチ オンライン月例会

7月から始まったGEN 関東フランチオンライン月例会は、毎月第4土曜日におこなう予定です。ウェブ会議システムZoomを利用するので、どこからでも、どなたでもご参加いただけます。月例会の案内は関東フランチのメーリングリストに発信されますので、月興味をお持ちの方はメーリングリストへの登録をお願いいたします。登録希望は上田信さん（ueda@rikkyo.ac.jp）までご連絡ください。

【9月度月例会】
○日時：9月26日（土）15時～18時45分

○話題提供：鶴田惇さん（GEN 会員、大学時代に GEN ツアーに参加。以後中国に興味を持ち中国留学を経験。現在は（株）ツムラで漢方薬の原料の栽培・購入を担当）

○タイトル：『マツタケ～不確定な時代を生きる術～』読書会 第1回（アナ・チン著／赤嶺淳訳／みすず書房）

○概要：本書では、著者と研究チームが日本、アメリカ、中国、フィンランドのマツタケ採取の現場を調査し、マツタケを通して森林・人・社会の繋がりを記載しています。「日本で売られる高級品」ということは共通しているものの、「商品」になるまでの過程には、地域ごと、マツタケごとのドラマがあることに気づかされます。

今回は本書の概要や、本書に登場する鶴田さんが学生時代に参加したことがある市民グループ「まつたけ十字軍」について紹介します。とても広い視野で書かれている本ですので、今回紹介するのはほんの一部になると思います。すでに読まれた方もそうでない方にもご参加いただき、いろいろな視点からごつばらんに意見交換できればと思います。一応読書会と銘打っていますが読まれていない方も大歓迎です。

黄土高原史話<100>

文帝乙弗皇后の悲劇（下）

話を少しもどして、西魏の大統四年（538）のこと。

これよりまえから、モンゴル系遊牧民の蠕蠕（柔然）が北方で勢力を振るい、しばしば辺境を侵してくる。そこで最高実力者宇文泰は、政略結婚によって、これと和親せんとする策を思いつく。二月、現皇后乙弗氏を廃し、かわって蠕蠕可汗（王）郁久閭氏の女を納れんことを文帝に請う。いわば恋女房の乙弗氏だったが、事実上あやつり人形の文帝は、国家のためにと、これに従わざるをえなかった。蠕蠕側も、それまでの親東魏路線を改めて、西魏との通好（好を通ずる）に舵を切った。

同年三月、蠕蠕領内の黒塩池の傍らに、結納の品を運んで魏朝の行列が到着すると、そこには天幕を張り椅子を並べて、郁久閭氏以下が待っていた。引き出物の車700乗、馬1万疋、駱駝1千頭。このとき、両者に意見の違いあり。魏の正使が中華の礼にのっとって南面せられんことを請うたのに対し、新婦はキッパリ、

「我は未だ魏王に見へず、故より蠕蠕の女なり。魏の杖（儀式用の武器、または儀仗兵）南を向く。我は東より面す。」

と、「東を以て貴しと為す」「蠕蠕の俗」を主張。郁久閭阿那瓊の長女はこのとき14歳。プライドが高く、気も強いお嬢さんだったようだ。

是に於て更めて悼后を納る。后（乙弗氏）に命じて別宮に遙り居らしめ、出家して尼と為す。

立后して「悼后」とよばれた郁久閭氏は、もともと「容貌端嚴、夙に成智あり」と評されるが、女としての勘も鋭かったのだろう。別宮で出家生活を送らせていたとしても、夫文帝の気持がなお先妻にあることを感じ取った。

悼后、猶ほ猜忌を懷く。復た后（乙弗氏）を従して秦州に居らしむ。

新妻の疑いを晴らすべく、文帝は乙弗氏を都の長安から西へ250キロの秦州（甘粛省天水市）に移した。文帝と

谷口 義介（GEN 会員）

乙弗氏との間には男女12人の子があったが、成長したのは皇太子欽（のち廢帝）と弟の武都王戊のみ。帝はこの武都王を秦州刺史（地方長官）に任命し、母を保護させたのだ。しかし、帝、大計に限らると雖も（国家の方針に逆らえないが）、（乙弗氏への）恩好忘れず。後、密かに髪を養はしむ。追って還すの意あればなり。」

つまり、そのうち還俗させて必ず都に呼び戻す、という密命があったわけだ。これにつき史書は、「事、秘禁せられて、外に知る者なし」と述べているが、当の史書に記録されていること自体、秘密は漏れていたことを意味しよう。

六年（540）春、蠕蠕 国を挙げて河（黄河）を度り、前駆は已に夏（陝西省夏州）を過ぐ。頗る言ふ有り、「虜（えびす）、悼后の故の為に此の役を興す」と。

密命を知った悼后が実家の父に泣きつき、そこで蠕蠕は南下を開始した、と巷の噂。これがじつは真相だが、事ここに至って文帝は乙弗氏に自死を命ずるほかはない。勅を奉じて使者が至ると、乙弗氏は、

「願はくは至尊（帝）千万歳を享け、天下康寧ならんことを。死しても恨むなし。」

と武都王に伝え、侍御はみな涙を垂れ声を失して、頭をあげる者となない。そして、僧を召して仏事を行ない、侍女数十人を自らの手で落髪したのち、

乃ち室に入り、被を引いて自ら覆ひて崩ず。年三十一なり。麦積崖に鑿ちて龕を為りて葬る。

のち寂陵と名づけられたこの墓は、天水市の東南45キロ、麦積山石窟の第43号窟（図参照）にあたる。これより12年後の552年、皇太子欽が即位すると、父帝の眠る長安の永陵に合葬された。せめてもの幸いとするべきか。

いっぽう、大統六年（540）つまり乙弗氏が自尽した年、このとき16歳の悼后は懷妊。瑤華殿に伏せていた

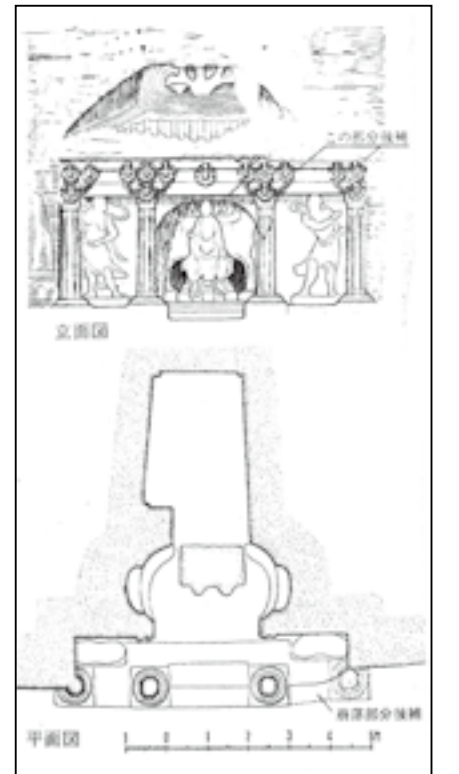


が、着飾った婦人がやって来るのを見た。「これ何人ぞや」と周囲に問うたが、誰の眼にも映らない。

時に以て文后（文帝乙弗皇后）の靈と為す。

と史書は述べ、「産訖りて崩ず」と記す。すなわち悼后の産褥死は、乙弗氏の祟りとみなしているわけだ。

以上、引用文はすべて唐・李延寿『北史』巻13「后妃伝」によった。



本の紹介

『人口の中国史—先史時代から19世紀まで』上田信著／岩波新書／820円＋税

GEN 副代表で立教大学文学部教授の上田信先生の著書です。一八世紀の人口爆発は、なぜ起こり、何をもたらしただか。4千年の歴史と現在をヒトの生態から読み解きます。GENのプロジェクト地、蔚県（代国・蔚州）についても触れられています。

情報ひろば
いっしょなかたち

第45期
ナチュラリスト
入門講座

里山で野生動物の足跡や痕跡、フンなどを観察し、生態や暮らしぶりを学び、人と自然を考える講座です。

- 日程：10月17日オリエンテーション、大阪の哺乳動物／10月24日フィールドワーク豊能町・青貝山／10月31日～11月1日フィールドワーク能勢町・剣尾山山麓、大阪の里山とシカ・ノネズミ／12月7日フィールドワーク池田市・五月山／12月27日フィールドワーク奈良公園／1月日程調整中 野生動物と人との関係／2月6日フィールドワーク箕面市・鉢伏山／2月19日日本列島の三万五千年ー人と自然の環境史／2月27日フィールドワーク泉南市・畦の谷／3月28日野生動物の食生活フン分析実習／3月25日最新シカ報告、修了式／4月第39回里山一斉調査に参加
- 会場：フィールドワーク以外は大阪

*当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。
*当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

- 産業創造館18時30分～20時50分(10月17日は13時30分～)
- 定員：30名(先着順、18歳以上のかた)
- 受講料：一般12,000円、大阪自然環境保全協会正会員10,000円(宿泊費・交通費別)
- 申込み方法：住所、氏名、性別、年齢、電話番号、会員か否かを記入してはがき、ファクス、e-mailで下記まで。
- 申込先：(公社)大阪自然環境保全協会 NOB・BOX 行(〒530-0041 大阪市北区天満橋1-9-13 ハイム天神橋202 tel. 06-6242-8720 fax. 06-6881-8103 e-mail: office@nature.or.jp URL http://www.nature.or.jp/)

森林総合研究所関西支所
令和2年度公開講演会
空から森林をみる

人工衛星、飛行機、ドローンを使って見えてくる森林についての講演会です。

- 日程：10月16日(金)13時30分～16時30分(開場12時30分～)
- 会場：龍谷大学響都ホール校友会館(JR京都駅八条口前アバンティ9階)
- 内容：13時40分～「人工衛星から花の山を見る」鷹尾元氏／14時20分～「飛行機から山の崩れやすさを診る」多田泰之氏／15時～「ドローンから草木のせめぎ合いを観る」中尾勝洋氏
- 参加費：無料
- 主催：国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所関西支所
- 問合せ・申込み：10月9日(金)までに電話・ファクス・e-mailにてお名前、所属、連絡先を下記までお知らせください。森林総合研究所関西支所 地域連携推進室(〒612-0855 京都市伏見区桃山町永井久太郎 68 tel. 075-366-9905 fax. 075-611-1207 e-mail: fsm-ren@ffpri.affrc.go.jp URL https://www.ffpri.affrc.go.jp/fsm/)